



川崎市職員労働組合 清掃支部 発行
 川崎市川崎区東田町7-2 東田ビル2階
 電話 044(22)5906
 発行責任者 渋谷 勝美
 編集責任者 稲葉 拓也

清掃支部ホームページ QRコード

人権について考える機会を 支部人権標語が選定される

2019年12月5日(木)、国の人権週間に合わせた取り組みとして、各職場において「人権週間」職場研修が行われた。また、人権研修に合わせた取組みとして、人権部が標語を募集し、支部人権標語を選定した。

2019年度

清掃支部 人権標語選定結果

「まずは自分から。」

「学ぼう、変えよう、人権意識！」

宮前分会 井山 宏泰 さん 作

集会の様子(宮前)

集会の様子(堤根)

2019年12月5日(木)、国の人権週間に合わせた取り組みとして、各職場において「人権週間」職場研修が実施された。12月4日(水)0日までの1週間は人権週間、1948年12月10日の国際連合総会において、基本的人権及び自由を尊重し確保するために、世界の全ての人々と国々が達成すべき共通の基準として採択された。採択日の12月10日を「人権デー」と定め、日本でも1949年以来、「人権デー」を最終日とする1週間を「人権週間」としてきた。

今回の人権研修を通じて、各分会からの意見として、人権について普段考える機会が少ないため、今回のような集会は良かったと感じる方がいたり、映像教材を使用せずに使えるような学習教材を知りたいなど、その他にも様々な意見が上がった。

今回の人権研修を通じて、支部人権部としても組合員の方々に人権に関して考える機会を設ける取組を行い、組合員の方と一緒に人権意識の醸成を図ってきたいと思った。

(人権部)

隣にいる仲間を想う 〜在日外国人と日本人は国籍・民族を超えていけるか〜

第21回 林慶一

やっと卒業年度に到達したヨンスはソウルで就職活動をしていましたが、思うようにいかず壁にぶち当たっていました。そんなとき、李南姫(イ・ナミ)という女子学生と出会い、一緒に住まないか、と提案されました。詳しく話を聞くと、どうやらルームシェアしようというところらしく特別な意味はないようでしたが、条件としてマンション管理費と光熱費を折半、入居時保証金の八百万ウォンを半額ずつ出し合おうという提案でした。はじめはそんな気持ちはありませんでしたが、ナミの持つ魅力的な雰囲気や押し入れ、一緒に住むのも悪くないという気持ちに揺らいでいきました。

ヨンスは仕事が見つからばこのまま韓国に住み続けたいと思いましたが、ナミからなっていました。ナミからの提案である入居時保証金の半額、四百万ウォンと言えは日本円で約五十万円(当時のレート)、この五十万円をどうやって捻出するか思案して見ました。アルバイト先に前借りする、友人に借りる、日本の両親に相談するという三つの方法を考えつきましたが、アルバイト先や友人に借りるのは現実的ではないので結局両親に電話し、事情を話しました。するとオモニ(母親)は、ヨンスが小さいときからこつこつ積み立てていたヨンス名義の預金通帳がある、たぶん百万円ほどになっていると思う、ヨンスが結婚するときに渡そうと思っていたが、本当に韓国で住むという覚悟があるのならこのお金を使ったらいい、と言いました。ナミと同居することはまだ話していませんでした。後ろめたい気持ちもありました。オモニに感謝の気持ちを伝え、そのお金を使うことにしました。一週間後ナミに会い、一緒に住むという提案を受けると返事をしました。ナミはとても喜んでくれて、引っ越しは一か月後だけ、今ちょうど内見できるからさっそくそのマンションを見に行こう、と言いました。江南区狎鷗亭洞(カンナムグ・アックジョンドン)にあるそのマンションは、新築でしゃれたマンションでした。学校へも都心へもアクセスが良く、狎鷗亭洞という街自体が人気の街なので、ちょっとした優越感もあり、気に入ってしまいました。七〇七号室だということ部屋番号も縁起がいい感じがしました。間取りは5LDKで、入ると右側に洗面所と風呂とトイレ、左側に四畳半ほどの部屋が二つありました。廊下を進んでいくとダイニングキッチンと二十畳はありそうなりリビングが広がっていました。奥にさらに三つ部屋があり、それぞれにドアがあつて中からカギがかけられるようになっていて、完全にプライベートが保たれている感じでした。

次号へ続く・・・

事故・災害の撲滅へ向けて 労災一掃職場集会在開催される

2019年12月6日(金)事故・災害の撲滅に向けて各職場ですべての職場から労働災害を一掃する職場集会在開催された。

この集会是清掃職場の繁忙期である12月に連続して死亡事故が起きたことをきっかけとした全国的な統一行動日として毎年開催されている。

すべての職場でゼロ災害を目指す職場環境の醸成と各種作業手順の順守徹底による取組みが急務となっている。

環境局職員安全衛生委員会・廃棄物部会選定
2019年度

年末年始安全作業運動期間優秀標語

「無事故で終える年末年始」

笑顔で迎える初仕事」

王禅寺処理センター 矢田 善明さん 作

王禅寺分会の集会状況

団結ガンバロウで締める中原分会 ▼

12月6日(金)、各職場

で「すべての職場から労働災害を一掃するための職場集会」が開催された。

今年、694人が集会に参加し、二度と重大な事故災害を起こさないという決意のもと行われた。

主な集会内容は、開催主旨の説明、支部長・局長メッセージ、事故災害発生状況の報告、年末年始の繁忙期とそれ以降の事故災害一掃に向けた決意表明。

各職場の取組み、各職場で独自の取組みが行われた。

川崎からは、これまでの分会の取り組みに協力頂いた感謝の気持ちを伝えるとともに、年末年始繁忙期間の安全衛生活動や、川崎独自の川崎大師平間寺早朝作業、公便清掃作業に対する注意喚起を行った。

宮前では、今後事故災害が起こらない様、組合員ひとり一人安全に対する意識向上に取り組む事を確認した。

王禅寺では、集会後に司会の掛け声により「年末年始作業ゼロ災ヨシ！」を参加者全員で唱和し、年末年始の作業を安全に乗り切る意識を高めた。

今年も、ごみ収集作業中に回転パネルに手を巻き込まれるという重大事故が1件発生。その重大性を鑑みて、災害の再発防止に向けた取り組みが行われた。さらに年末年始の繁忙期から関係部署では業務が多忙を極め、「職場(現場)の安全」が忘れがちな環境をなっている。

そのような環境だからこそ、私たちは安全衛生の取り組みを仕事のひとつと認識し、職場での始業・終業ミーティングによるコミュニケーション、乗車・降車時の指差呼称、バック誘導の徹底、機器操作時の指差呼称、危険情報の共有による事故災害の回避など、私たちが確立した安全作業要領と各種作業手順の順守徹底による地道な安全衛生活動を積み重ねていかなければならない。

(安全部)

直営をたてあげる

仲間達 (348)

発生し、業務量が増大しているなかですが、先輩職員から業務を教えてもらいながら業務にあたっています。

今回紹介する仲間は磯部玲さんです。

磯部さんは今年の10月に入庁し、施設部処理計画課に配属され活躍しています。配属直後に台風19号が

学生時代はフットサルをやっており、そのおかげでスタミナには自信があるとのことです。入庁後はフットサルを出来ないとのことですが、業務に慣れてきたらまたフットサルをやりたいとのこと。

入庁後、まだ業務に慣れていない時期ですが、先輩職員の背中をみながら、どんな業務でも対応できる職員になるという目標のために日々努力しています。

分会だより

191

王禅寺分会

こんにちは、王禅寺分会です。

2019年は台風15号と19号という大災害に見舞われました。被害にあわれた方に心よりお見舞い申し上げます。台風のため市内には災害ごみがあふれ市民生活に大きな影響がでています。当センターでも総力を挙げて災害ごみの処理処分に当たっています。

資源化処理施設に持ち込まれた災害ごみには冷蔵庫や洗濯機が200機程度あり、リサイクルするための品番をひとつひとつ手作業で調べる業務に追われました。他にも畳が千枚ほど搬

入されましたが水没していたため、次第に悪臭がたちこめ衛生対策として防臭剤と殺虫剤を定期的に散布しました。家電四品目や畳は国の予算で処理が決定し当センターから搬出されました。現在は、市民から環境事業所に持ち込まれた災害ごみを6品目にわけ、布団類・金属類・木製家具類の3品目を受け入れ保管しています。

大きな災害にも分会一丸となって立ち向かう王禅寺分会をこれからもよろしくお願います。

